

日本国特許庁
JAPAN PATENT OFFICE

17.11.03

別紙添付の書類に記載されている事項は下記の出願書類に記載されている事項と同一であることを証明する。

This is to certify that the annexed is a true copy of the following application as filed with this Office.

出願年月日
Date of Application: 2003年 4月 17日

RECEIVED	
09 JAN 2004	
WIPO	PCT

出願番号
Application Number: 特願 2003-112918

[ST. 10/C]: [JP 2003-112918]

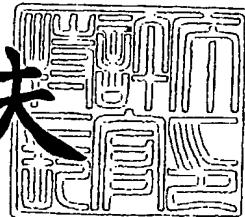
出願人
Applicant(s): カナレ電気株式会社

PRIORITY DOCUMENT
SUBMITTED OR TRANSMITTED IN
COMPLIANCE WITH
RULE 17.1(a) OR (b)

2003年12月22日

特許庁長官
Commissioner,
Japan Patent Office

今井康夫



【書類名】 特許願
【整理番号】 P03016KD
【特記事項】 特許法第30条第1項の規定の適用を受けようとする特許出願
特許法第30条第3項の規定の適用を受けようとする特許出願
【提出日】 平成15年 4月17日
【あて先】 特許庁長官 殿
【国際特許分類】 G02B 6/36
G02B 6/38
H01R 13/62
H01R 13/625
【発明者】
【住所又は居所】 愛知県愛知郡長久手町大字長湫字段之上1番地2 カナ
レ電気株式会社内
【氏名】 吉森 直樹
【発明者】
【住所又は居所】 愛知県愛知郡長久手町大字長湫字段之上1番地2 カナ
レ電気株式会社内
【氏名】 小松原 学
【特許出願人】
【識別番号】 591181229
【氏名又は名称】 カナレ電気株式会社
【代理人】
【識別番号】 100087723
【弁理士】
【氏名又は名称】 藤谷 修
【電話番号】 052-232-0733

【手数料の表示】

【予納台帳番号】 007445

【納付金額】 21,000円

【提出物件の目録】

【物件名】 明細書 1

【物件名】 図面 1

【物件名】 要約書 1

【物件名】 新規性の喪失の例外証明書 1

【提出物件の特記事項】 追って補充する。

【包括委任状番号】 9709113

【ブルーフの要否】 要

【書類名】 明細書

【発明の名称】 光コネクタの雌プラグ

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

フェルールの先端の端面を対峙、接触させた状態で保持する保持部材を備えた着脱可能なアダプタユニットを有する光コネクタの雌プラグにおいて、

前記アダプタユニットの着脱機構をバイオネットロックを用いて構成したことを特徴とする光コネクタの雌プラグ。

【請求項 2】

前記雌プラグは略筒型の雌プラグシェルに内包的に保持されていることを特徴とする請求項 1 に記載の光コネクタの雌プラグ。

【請求項 3】

前記アダプタユニットは、前記バイオネットロックを開閉操作するための回動動作を伝達するシャフトを有する

ことを特徴とする請求項 1 又は請求項 2 に記載の光コネクタの雌プラグ。

【請求項 4】

前記アダプタユニットが離脱した前記雌プラグの本体は、雄プラグ側とは反対側に位置する前記シャフトの端部 A と互いに嵌合可能なバイオネットロック溝が設けられたフックボルトを有する

ことを特徴とする請求項 3 に記載の光コネクタの雌プラグ。

【請求項 5】

前記端部 A は、前記シャフトと略直交する 2 つの凸部を有し、

前記フックボルトには、マイナスドライバーと係合させるべき係合溝の少なくとも一部が、前記バイオネットロック溝の一部を利用して形成されている

ことを特徴とする請求項 4 に記載の光コネクタの雌プラグ。

【請求項 6】

前記シャフトの雄プラグ側に位置する端部 B は、前記雌プラグの略先端の略中央に配置されている

ことを特徴とする請求項 3 乃至請求項 5 の何れか 1 項に記載の光コネクタの雌プラグ。

ラグ。

【請求項7】

前記バイオネットロックを解除する際に伸長することにより、前記シャフトの雄プラグ側に位置する端部Bを、前記雌プラグの略先端の前方に押し出すバネを有し、

前記アダプタユニットは、

前記雌プラグの略先端の前方に、前記バネにより押し出された前記端部Bを、更に同じ方向に引くことにより、前記雌プラグから離脱されることを特徴とする請求項3乃至請求項6の何れか1項に記載の光コネクタの雌プラグ。

【請求項8】

前記シャフトの雄プラグ側に位置する端部B付近に、前記バイオネットロックを開閉操作するか又は前記アダプタユニットを取り出すための指先操作部を有する

ことを特徴とする請求項3乃至請求項7の何れか1項に記載の光コネクタの雌プラグ。

【請求項9】

前記指先操作部は、ゴム系又は樹脂系の材料を用いて形成されたOリング、キャップ、又はツマミを有する

ことを特徴とする請求項8に記載の光コネクタの雌プラグ。

【請求項10】

前記指先操作部は、指の力だけで締めたり緩めたりすることを可能又は容易とする略蝶形の頭部を有する

ことを特徴とする請求項8又は請求項9に記載の光コネクタの雌プラグ。

【請求項11】

前記バイオネットロックの雌側に形成すべきロック溝は、

前記着脱機構の着脱方向に沿った中心軸方向に、前記バイオネットロックの雄側の凸部を案内する第1案内溝と、

前記雄側の前記凸部を前記中心軸回りの回動方向に案内する第2案内溝と

を有し、

前記第2案内溝の端部は、前記中心軸と軸が略直交する略円筒形の丸溝部を有する

ことを特徴とする請求項1乃至請求項10の何れか1項に記載の光コネクタの雌
プラグ。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】

本発明は、フェルールの先端の端面を対峙、接触させた状態で保持する、例えば割スリープなどの保持部材を備えた着脱可能なアダプタユニットを有する光コネクタの雌プラグに関する。

【0002】

【従来の技術】

【特許文献1】

実開平6-2306号公報

【特許文献2】

実開平6-4711号公報

【0003】

2つのフェルールの先端の端面を対峙、接触させた状態で保持する、例えば割スリープなどの保持部材を備えた着脱可能なアダプタユニットを有する光コネクタの雌プラグに関する公知の従来技術としては、例えば、上記の特許文献1や特許文献2などに記載されているもの等がある。

例えば上記の特許文献1に記載されている光コネクタなどは、割スリープを備えた着脱可能なアダプタユニットを有しており、雌プラグ側のフェルールの先端の端面が汚れていた場合には、このアダプタユニットを雌プラグから外して、綿棒などを使って汚れを拭き取ることができる。

【0004】

図8は、上記の特許文献1に記載されている光コネクタと同型の、現在普及している従来の光コネクタの雌プラグ10の断面図及び側面図であり、本図8の各

符号の意味は、上記の特許文献1に記載されている図2の各符号の意味とそれ一致している。ただし、符号18aは、かけ押さえ金具18の中心軸回りに形成された雌ねじ部を指している。

以下、本明細書の各図面においては、雌プラグと嵌合する雄プラグのシェルの開口部が向いている向きをx軸の正の向きとし、雌雄両プラグの各中心軸とx軸とは一致するものと仮定する。

【0005】

図8に図示する従来の雌プラグ10では、アダプタピン20の先が雄ねじになつておらず、上記の雌ねじ部18aと螺合している。マイナスドライバーを用いてこの螺合を緩め解くことにより、このアダプタピン20は外れる。割スリープ22を内包的に保持するアダプタ19も、この操作により、アダプタピン20と共に雌プラグ10のシェル11の小径部13から離脱させることができる。

【0006】

【発明が解決しようとする課題】

しかしながら、上記の図8の従来の光コネクタの雌プラグ10においては、アダプタ19を外す際に、上記の螺合を緩め解くために、アダプタピン20を7～8回転させなければならず、アダプタ19を外すのに思いの外手間隙が掛かり煩わしい。

更に、その操作にはドライバーなどの道具が必要となるため、光コネクタ使用中などの緊急の場合には、身近に道具がなければフェルールの先端の端面を掃除することができず、運用上非常に都合が悪い。

【0007】

本発明は、上記の課題を解決するために成されたものであり、その目的は、非常に容易かつ短時間で着脱可能なアダプタユニットを備えた光コネクタの雌プラグを実現することである。また、本発明の更なる目的は、光コネクタの雌プラグにおいて、アダプタユニットの着脱に道具を必要としない着脱機構を実現することである。

ただし、上記の個々の目的は、本発明の個々の手段の内の少なくとも何れか1つによって、個々に達成されれば十分なのであって、本願の個々の発明は、上記

の全ての課題を同時に解決し得る手段が存在することを必ずしも保証するものではない。

【0008】

【課題を解決するための手段、並びに、作用及び発明の効果】

上記の課題を解決するためには、以下の手段が有効である。

即ち、本発明の第1の手段は、フェルールの先端の端面を対峙、接触させた状態で保持する保持部材を備えた着脱可能なアダプタユニットを有する光コネクタの雌プラグにおいて、アダプタユニットの着脱機構をバイオネットロックを用いて構成することである。

【0009】

図1は、周知のバイオネットロックに係わる作用原理を例示的に説明する斜視図である。例えばこの様なバイオネットロックを用いれば、通常、凡そ一直角(90°)前後の回動操作をさせるだけで、ロックの解除や締結を実施することが可能又は容易となる。

【0010】

より一般には、ロック構造の雄側(224')に設けるべき係合ピン(凸部224a')の数は勿論複数でも良い。ロックの開閉操作時の回動操作角は、ロック構造の雌側(226')に設けられるバイオネットロック溝H'の形状で決まる。バイオネットロックの使い易さや作り易さなどを考慮すれば、例えばロック構造の雄側(224')にこの係合ピン(凸部224a')を2つ設ける場合、ロックの開閉操作時の回動操作角は60°～120°程度が望ましい。また、この係合ピンを例えれば図1に例示する様に唯一設ける場合には、ロックの開閉操作時の回動操作角は60°～180°程度が望ましい。

【0011】

したがって、本発明によれば、何れにしても、高々二直角以内の回動操作だけでロックの解除や締結を実施可能に構成することができる。また、バイオネットロックを用いれば、ロック構造の雌雄双方を固く螺合させることなく確実な締結効果を得ることができる。よって、上記の構成に従えば、ロックの締結操作や解除操作を簡単に実施できる。

【0012】

即ち、本発明によれば、着脱可能なアダプタユニットを有する光コネクタの雌プラグにおいて、アダプタユニットの着脱機構をバイオネットロックを用いて構成すれば、非常に容易かつ短時間で着脱可能なアダプタユニットを備えた光コネクタの雌プラグを実現することができる。

また、上記の構成に従えば、アダプタユニットの着脱に道具が必要とならない様に着脱機構を構成することも可能又は容易となる。

以下、本発明のより望ましい形態を構成する手段をより具体的に説明する。

【0013】

即ち、本発明の第2の手段は、上記の第1の手段において、上記の雌プラグを略筒型の雌プラグシェルに内包的に保持することである。

本発明は、上記の雌プラグを内包的に保持する略筒型の雌プラグシェルを雌プラグに備えなくとも、勿論、上記の効果を大いに発揮するが、雌プラグと雄プラグとの連結を確実に維持したり、フェルールの先端の端面をできるだけ綺麗に維持したり、光コネクタを外力から十分に保護したり、コネクタ類に対する防水作用を十分に確保したりするためには、上記の本発明の雌プラグは、雌プラグシェルに内装させることがより望ましい。即ち、本発明は、この様な手段を用いて構成されるより信頼性の高い光コネクタにおいて、より大きな作用・効果（付加価値）を相乗的にもたらす。

【0014】

また、本発明の第3の手段は、上記の第1又は第2の手段において、バイオネットロックを開閉操作するための回動動作を伝達するシャフト（以下、「アダプタシャフト」などと言うことがある。）をアダプタユニットに設けることである。

この様な構成に従えば、アダプタユニットを離脱させた際に、バイオネットロックを開閉操作するための回動動作を伝達するシャフトも同時に離脱されるので、フェルールの先端の端面を掃除する際に、この様なシャフトが邪魔になることが無く大変都合がよい。

【0015】

また、本発明の第4の手段は、上記の第3の手段において、アダプタユニットが離脱した雌プラグの本体に、雄プラグ側とは反対側に位置するシャフトの端部Aと互いに嵌合可能なバイオネットロック溝が設けられたフックボルトを設けることである。

この様なバイオネットロック溝が設けられたフックボルト（例：図5）はバイオネットロックの雌ねじ構造を具現するものであり、勿論、上記のシャフトの端部Aはこの様なフックボルトを用いて形成しても良い。しかしながら、バイオネットロックの雌ねじ構造は、アダプタユニット側よりも雌プラグの本体側に取り付けた方が、雌プラグの本体側を組み立て易い構造に設計し易い。これは、後述の実施例（図3、図4、図5）で明快に例示される様に、フックボルトが文字通りボルトの機能を兼ね備えているためである。

【0016】

また、第5の手段は、上記の第4の手段において、上記のシャフトと略直交する2つの凸部を端部Aに設け、マイナスドライバーと係合させるべき係合溝の少なくとも一部を、フックボルトに、上記のバイオネットロック溝の一部を利用して形成することである。

例えば後述の実施例（図5）で例示される様なフックボルトには、その様な係合溝が設けられているが、これにより、このフックボルトの締結作業にマイナスドライバーを使用することが可能又は容易となるので、雌プラグの本体側を組み立て易い構造にすることができる。

【0017】

また、第6の手段は、上記の第3乃至第5の何れか1つの手段において、シャフトの雄プラグ側に位置する端部Bを雌プラグの略先端の略中央に配置することである。雌プラグの略先端に配置すれば、アダプタユニットの着脱操作がし易くなる。また、略中央に配置すれば、バイオネットロックを解除したり締結したりする際に端部Bを押す際に、力が雌プラグの重心方向に向い易いので、操作安定性を確保することができる。

【0018】

また、特に、雌プラグを雌プラグシェルにて内包的に保持する構造の雌プラグ

を製造する場合には、通常、アダプタユニットは雌プラグシェルの開口部の若干奥まった位置に配置される。これは、アダプタユニットを十分に雌プラグシェルで保護するためであるが、この様な場合に、シャフトの雄プラグ側に位置する端部Bが雌プラグの略先端の略中央に配置されていれば、アダプタユニットを着脱させる時に、雌プラグの開口部の少し奥まった位置に指を入れて、端部Bを指などで押したり摘んだり回したりするのに都合がよい。

【0019】

また、第7の手段は、上記の第3乃至第6の何れか1つの手段において、バイオネットロックを解除する際に伸長することによりシャフトの雄プラグ側に位置する端部Bを雌プラグの略先端の前方に押し出すバネを設け、雌プラグの略先端の前方に、バネにより押し出された端部Bを、更に同じ方向に引くことにより、アダプタユニットを雌プラグから離脱させることである。

【0020】

バイオネットロックの解除後に、アダプタユニットを引き抜く際に、アダプタユニットにシャフトが内蔵されていれば、その端部Bを引くことによりそのアダプタシャフトと一緒にアダプタユニットを離脱させることができる。したがって、端部Bを引っ張る際に、端部Bが前方に飛び出せば、端部Bが即時に持ち易くなり、アダプタユニットを非常に簡単に離脱させることができるので、誠に都合が良い。

また、バネの部位を持つこともできるので、これもアダプタユニットを引き抜く際に都合がよい。

【0021】

また、第8の手段は、上記の第3乃至第7の何れか1つの手段において、シャフトの雄プラグ側に位置する端部B付近に、バイオネットロックを開閉操作するか又はアダプタユニットを取り出すための指先操作部を設けることである。

この様な指先操作部は、端部Bの指先での操作をより簡単にするためのものであり、例えば以下の様な手段にしたがって、構成することが望ましい。

【0022】

即ち、第9の手段は、上記の第8の手段において、指先操作部に、ゴム系又は

樹脂系の材料を用いて形成されたOリング、キャップ、又はツマミを設けることである。

この様な構成に従えば、端部Bを指先で押したり回したり或いは押し回したりする際に指が滑り難い、端部Bを持ち易い、端部Bを何度も操作しても指が痛くなり難いなどのメリットが得られる。

【0023】

また、第10の手段は、上記の第8又は第9の手段において、指先操作部に、指の力だけで締めたり緩めたりすることを可能又は容易とする略蝶形の頭部を設けることである。

【0024】

ただし、ここで言う蝶形とは、例えば図9に例示される様な、周知の所謂蝶ナットや蝶ねじの頭部などに見られる、指先で持ち易く且つ回す際に回動方向に力を入れ易い頭部のことである。

例えばこの様な構成に従えば、上記の指先操作部をより操作性の高い形状に形成することができる。

【0025】

また、第11の手段は、上記の第1乃至第10の何れか1つの手段において、着脱機構の着脱方向に沿った中心軸方向に、バイオネットロックの雄側の凸部を案内する第1案内溝と、雄側の凸部を中心軸回りの回動方向に案内する第2案内溝とから、バイオネットロックの雌側に形成すべきロック溝を形成し、この第2案内溝の端部に、上記の中心軸と軸が略直交する略円筒形の丸溝部を設けることである。

【0026】

この様な丸溝部は、ロックの雄側の凸部の收まりを良くするのに適しており、ロックの締結状態を安定的に維持する際に良好に作用する。特に、前述の端部Bを雌プラグの略先端の前方に押し出すバネを設けた場合には、そのバネの弾性力によってロックの雄側が付勢されるので、ロックの雄側の凸部がその丸溝部に押圧される。したがって、バネを縮める方向の力をロック解除操作などによってバネに与えない限り、ロックの雄側の凸部がその位置から外れることはない。

以上の本発明の手段により、前記の課題を効果的、或いは合理的に解決することができる。

【0027】

【発明の実施の形態】

以下、本発明を具体的な実施例に基づいて説明する。ただし、本発明は以下に示す実施例に限定されるものではない。

【実施例】

図2は、本実施例の雄プラグ300と雌プラグ200の結合時における断面図及び側面図である。このケーブルコネクタは、外見的には、略円筒形の雄プラグシェル301と略円筒形の雌プラグシェル202と略円筒形のスライドカバー215の3つの部品が主に外部に露出している。

【0028】

スライドカバー215は、略円筒形のスライドスリーブ203を内包的に保持し、x軸方向にスライド可能に雌プラグシェル202上に固定されている。

上記の各略円筒形の部品の中心軸は、x軸と一致している。左右2つのフェルール217の接触面の標準的な位置におけるx座標をx=0とする。この時、本図2に図示する様にピン206はxz平面上に位置する。以下、x軸回りの回転角をθとする。この回転角θは、z軸での正の向きを基準（θ=0）として計り、θ=0からy軸の正の向きに向う回転方向をθ>0とし、y軸の負の向きに向う回転方向をθ<0とする。

例えば、スライドカバー215の開口部215aは、x軸の負の向きを向いており、それとは反対側に位置するスライドカバー215のかしめ部210は、x軸の正の向きを向いている。

【0029】

図3は、雌プラグ200の断面図である。ただし、本図3においては、中心線で表されているx軸よりも上の部分は、θ=0°となる断面の断面図であり、x軸よりも上の部分は、θ=60°となる断面の断面図である。また、フックボルト226の詳細な形状については、図4、図5に記載した。

巻きバネ213は、雌プラグシェル202の巻きバネ当接壁202aとスライ

ドスリープ203の上記の大リングの縁との間に挟まれて、スライドカバー215の内側に伸縮自在に保持されている。スライドカバー215のスライド運動は、 x の正の向きに関しては、巻きバネ213又はスライドスリープ203と巻きバネ当接壁202aとの当接によって制限されており、 x の負の向きに関しては、かしめ部210によって制限されている。このかしめ部210は、スライドカバー215自身の開口部とは反対側に位置する自身の底側の略リング形状の端部215bを内側にかしめることにより形成されている。

【0030】

ピン205は、スライドスリープ203の溝203bと係合する突起部を構成している。雌プラグシェル202上の鋼球係合溝211は、雄プラグシェル301がその開口部付近に有する図略の鋼球と係合する。この鋼球係合溝211は、その鋼球と当接する当接部211aを有する。この雌プラグシェル202上に形成された当接部211aは、その鋼球の x 軸方向の負の向きの運動を拘束するためのものである。

【0031】

雌プラグ200側の第1コンタクト部は、絶縁体207、絶縁体208、絶縁体209、及びそれらの絶縁体の内部に保持された部品から成る。絶縁体207、絶縁体208、絶縁体209は、互いに x 軸回りの相対的な回動動作を拘束する図略の係合部を有する。割スリープ220は、割スリープホルダ221と割スリープホルダ222によって保持されており、この割スリープ220の中で、雄プラグ300側の第2コンタクト部が有する図2のフェルール317とフェルール217とが、図示される様に各端面同士で面接触する。

その他の各符号223、224、225、226は、TMクランプ、アダプタシャフト、Oリング、フックボルトをそれぞれ示している。

【0032】

図4は、絶縁体209の断面図(a)と、この絶縁体209を固装するためにこの絶縁体209を押圧する押圧機構Mの同一断面上の断面図(b)である。絶縁体209の凡その概形は、中が詰まった円筒形に対して、7つの円筒形の穴を軸方向が x 軸方向に一致する様に略ハニカム状に配置形成したものである。また

、絶縁体208の凡その概形は、中が空の略桶状の円筒形の底面に、7つの円形の穴を略ハニカム状に配置形成したものである。符号208cは、その略桶状の円筒形の底面に空けた穴の側壁を指している。符号208bは、その略桶状の円筒形の上部の円形の縁を指している。符号208aは、縁208bから突出した、TMクランプ223と契合する凸部を示している。

【0033】

TMクランプ223のベース部は、略円筒形のパイプ223aから形成されている。このパイプ223aの先端の内壁には、雌ねじ部223bが形成されており、フックボルト226は、自身の雄ねじ部226aとパイプ223aに形成された上記の雌ねじ部223bとを螺合させることにより固定される。

更にTMクランプ223は、図3中右側の雌プラグシェル202の若干大径の内壁に切られた図略の雌ねじと螺合する図略の端部締結部材のねじ込みによって、緩衝部材を介して押圧されることにより固装される。

【0034】

図5は、フックボルト226の正面図(a)、側面図(b)、及び各部断面の断面図(c)、(d)である。図中の点p1、p2は、それぞれフックボルト226上の同一の位置(点)を指している。符号Hはバイオネットロック溝を指しており、符号hはマイナスドライバーと係合させる係合溝を指している。この係合溝hの図5(c)、(d)に記載されている部位は、雄ねじ部が形成されているボルトの先端側にバイオネットロック溝Hを拡張することにより形成されている。この様に、バイオネットロック溝Hは、ロックの雄側の係合ピン224aをx軸に沿って案内する第1案内溝(図5(a))と、x軸回りの回動方向に沿って案内する第2案内溝(図5(b)、(d))と、その回動の端点付近の端部でロックの締結状態を安定的に維持するための略円筒形の丸溝部K(図5(b)、(d))とから成る。図中の点p1、p2はそれぞれこの丸溝部Kの上記の回動方向における端点と一致している。

【0035】

この様な形状にフックボルト226を形成することにより、図6(b)のアダプタシャフト224の端部Aと良好に嵌合するバイオネットロック溝Hを備えた

フクッポルト226を製造することができる。

【0036】

図6は、本実施例のアダプタユニットUの正面図（a）及び、x軸を含んだ断面上の断面図（b）である。絶縁体207は、アダプタユニットUのハウジングを構成しており、略円筒形の穴207aが合計7つ略ハニカム状に配置形成されたものである。図2のフェルール217、317の各端部の端面を対峙、接触させて保持する本図6の割スリープ220は、割スリープホルダ221、222を用いて、上下2つの穴207aの中に保持される。

【0037】

この上下2つの穴207aの端部A方面側に位置する開口部近くの内壁には、それぞれ環状の凹部207bが形成されている。この凹部207bは、断面形状が略矢尻状で環状の、割スリープホルダ222の凸部222aと丁度嵌合する様に形成されており、割スリープホルダ222を上記の開口部から押し込んで圧入することにより、絶縁体207の凹部207bと割スリープホルダ222の凸部222aとは良好に挿嵌固定される。この様な構成に従えば、割スリープホルダ222を固定するために接着剤を使ったり、複雑で生産性の低いねじ込み構造を形成したりする必要がなくなり、かつ、上下2つの穴207aの中に割スリープ220を短時間で簡単かつ確実に固定することができる。したがって、この様な構造によっても、雌プラグ200の生産性は向上される。

【0038】

また、絶縁体207の略円筒形の外壁には、段差が1mm未満の小さな段部207cが形成されている。これは、割スリープホルダ222を挿嵌固定させた際に、絶縁体207の略円筒形の直径が、図6の上下方向に若干膨らんでしまう厚みを見込んで、予め絶縁体207の略円筒形の直径を細くしておくために設けたものである。これにより、絶縁体207の外形寸法の増減が相殺されるので、絶縁体207の組付けが阻害される恐れがなくなる。また、割スリープホルダ222の材料としては、例えば金属などの、絶縁体207よりも硬度若しくは剛性が高いものが望ましい。

【0039】

尚、以上の割スリープホルダ222、凹部207b、段部207cに係わる圧入や挿嵌固定に関連した構造は、バイオネットロックを有しない光コネクタの雌プラグにおけるより一般的アダプタユニットに対しても、勿論非常に有効な構造となる。即ち、以上の割スリープホルダ222の圧入や挿嵌固定に係わる構造は、本発明の請求項1の要件を満たさないより一般的アダプタユニットに対しても非常に有用な構造になり得るものであり、この様な構造は、バイオネットロック機構とは独立に認識することができる新しいものである。

【0040】

絶縁体207の中央の穴207aにはアダプタシャフト224が挿入され、その他の4つの穴207aには、他の電気配線関連のコンタクト類が挿入される。雄プラグ300(図2)側に配置されるアダプタシャフト224の端部Bには、マイナスドライバーを用いても、直接指でも回動操作可能な操作部が形成されている。一方、アダプタシャフト224の端部Aには、図5のフックボルト226のバイオネットロック溝Hと良好に係合する2つの凸部を構成する係合ピン224aが設けられている。

【0041】

バネ227は、バイオネットロックの解除時には、端部Bをx軸の負の向きに付勢して押し出す機能を奏し、バイオネットロックの締結時には、係合ピン224aをx軸の負の向きに付勢して、図4のフックボルト226のバイオネットロック溝Hに押し当てるにより、両者を確実に嵌合させる機能を奏する。

また、Oリング225は、バイオネットロックの解除時に端部Bが押し出された時に、アダプタユニットU全体を指先で引っ張り出し易くするための滑り止めの働きを奏する。この様な滑り止めの働きは、バネ227においても見られる。即ち、Oリング225やバネ227などは、アダプタユニットを取り出し易くするための本発明の指先操作部を構成している。

【0042】

図7に、アダプタユニットUが離脱された光コネクタの雌プラグ200の断面図及び側面図を示す。本図7からも判る様に、指先操作部を構成するOリング225やバネ227などの作用により、アダプタユニットUを取り出す際にアダプ

タユニットUは従来よりも明らかに指先で持ち易く成る様に形成されている。

尚、絶縁体207の凸部207dは、絶縁体209に対してアダプタユニットUを所定の角度で正しく係合させるために形成されたものであり、絶縁体209側には、この凸部207dを案内するガイド溝が対応する所定の角度に設けられている。

【0043】

以上の本発明の実施形態に基づいて、アダプタユニットUを指先だけで簡単且つ短時間に図7に例示される様に離脱させることにより、光ファイバーケーブル230の接続部に位置するフェルール217は、雌プラグシェル202の開口方面に広範に露出されるので、フェルール217の端部の端面を清掃する場合に、上記の様な実施形態は非常に都合がよい。

【0044】

【その他の変形例】

図9は、周知の代表的な蝶ナット(a)及び蝶ねじ(b)の各斜視図である。一般に、この様なナットやねじの頭の形を蝶形と言う。上記の実施例のアダプタシャフト224の端部Bの先端の形を蝶形にすると、アダプタシャフト224を直接指先だけでより容易に回動操作することができる。略蝶形の頭部をアダプタシャフト224の端部Bに設けた場合、マイナスドライバーとの係合溝は必ずしも必要ないが、両者を同時に備えることも可能である。

【0045】

また、端部B付近に構成すべき指先操作部に、ゴム系又は樹脂系の材料を用いて形成された前述のOリングと同様に、その他にも例えばキャップやツマミなどの操作に適した指先操作部を設ければ、端部Bを指先で押したり回したり或いは押し回したりする際に指が滑り難い、端部Bを持ち易い、端部Bを何度も操作しても指が痛くなり難いなどのメリットが得られる。

【図面の簡単な説明】

【図1】

周知のバイオネットロックに係わる作用原理を例示的に説明する斜視図。

【図2】

本発明の実施例に係わる雄プラグ200と雌プラグ200の結合時における側面図、及び断面上の断面図。

【図3】

雌プラグ200の断面図。

【図4】

絶縁体209の断面図（a）と、この絶縁体209を固装するためにこの絶縁体209を押圧する押圧機構Mの同一断面上の断面図（b）。

【図5】

フクッボルト226の正面図（a）、側面図（b）、及び各部断面の断面図（c），（d）。

【図6】

アダプタユニットUの正面図（a）及び断面上の断面図（b）。

【図7】

アダプタユニットUが離脱された光コネクタの雌プラグ200の断面図及び側面図。

【図8】

従来の光コネクタの雌プラグ10の断面図及び側面図。

【図9】

周知の代表的な蝶ナット（a）及び蝶ねじ（b）の各斜視図。

【符号の説明】

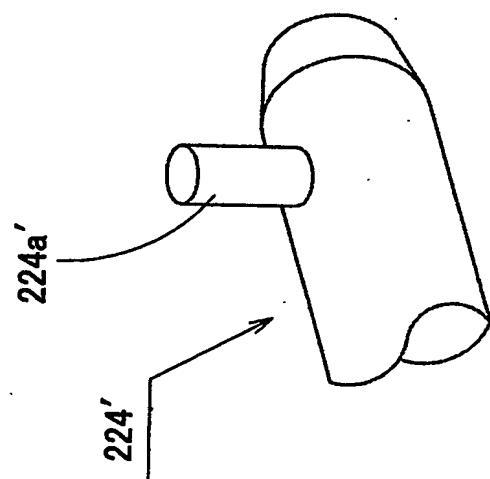
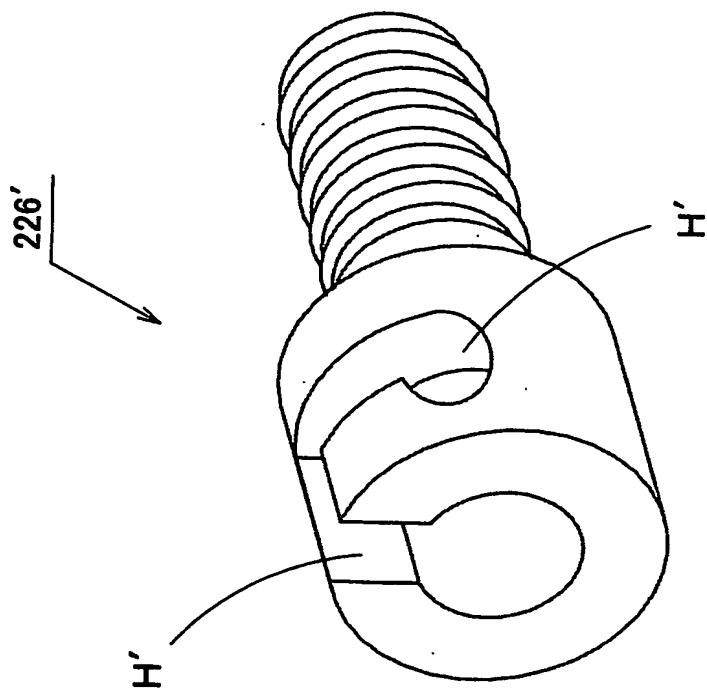
- 200 … 雌プラグ
- 202 … 雌プラグシェル
- 203 … スライドスリーブ
- 203b … 溝
- 205 … ピン
- 206 … ピン
- 207 … 絶縁体
- 208 … 絶縁体
- 209 … 絶縁体

210 … かしめ部
211 … 鋼球係合溝
213 … 巻きバネ
215 … スライドカバー
217 … フェルール (雌プラグ側)
220 … 割スリープ (保持部材)
221 … 割スリープホルダ
222 … 割スリープホルダ
223 … TMクランプ
224 … アダプタシャフト
224a … 嵌合ピン
225 … Oリング
226 … フックボルト
227 … バネ
230 … 光ファイバーケーブル
300 … 雄プラグ
301 … 雄プラグシェル
314 … Oリング
317 … フェルール (雄プラグ側)
A, B … アダプタシャフト224の端部
h … マイナスドライバーとの係合溝
H … バイオネットロック溝
K … バイオネットロック溝Hの丸溝部
M … 絶縁体209を押圧する押圧機構
U … アダプタユニット

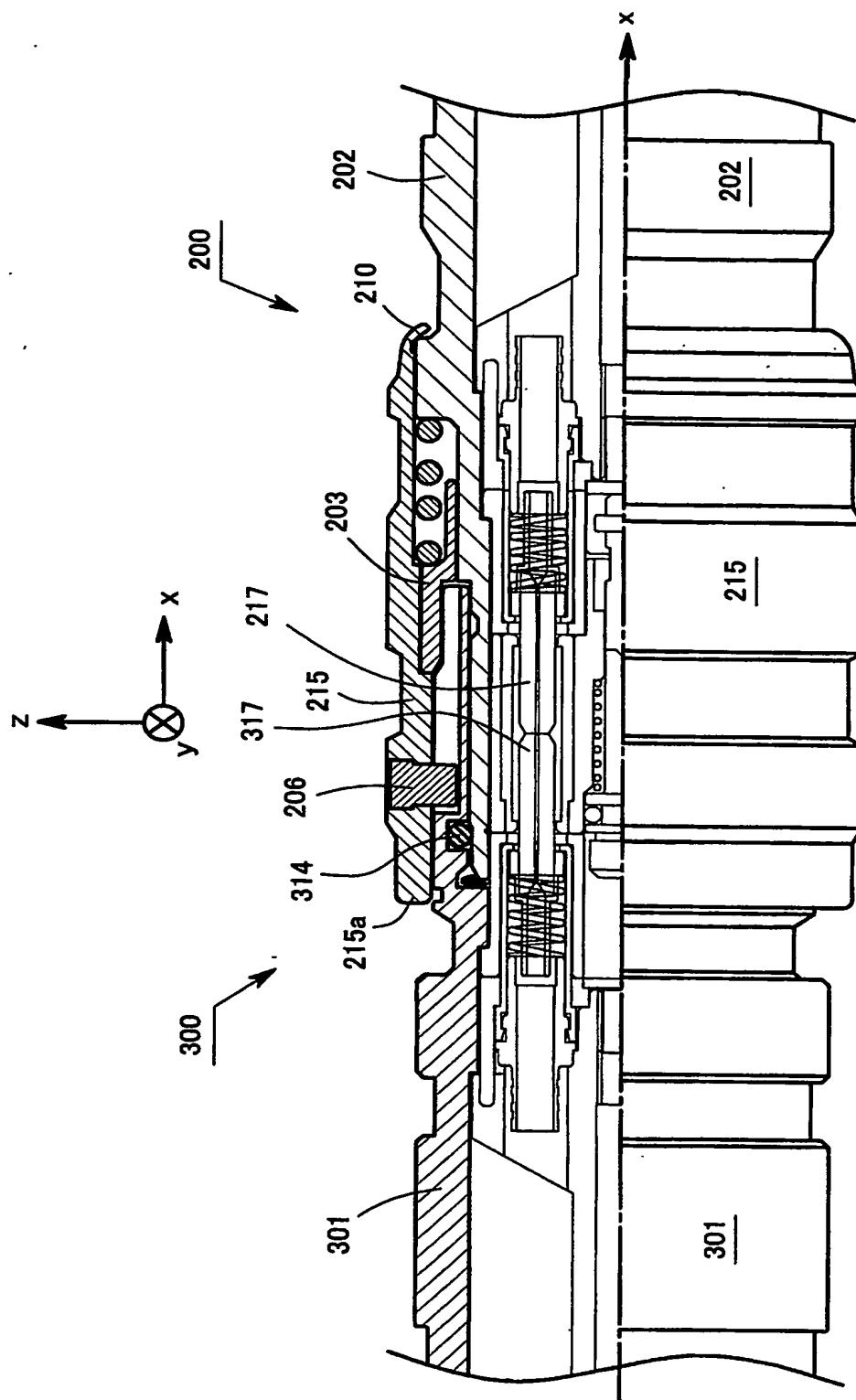
【書類名】

図面

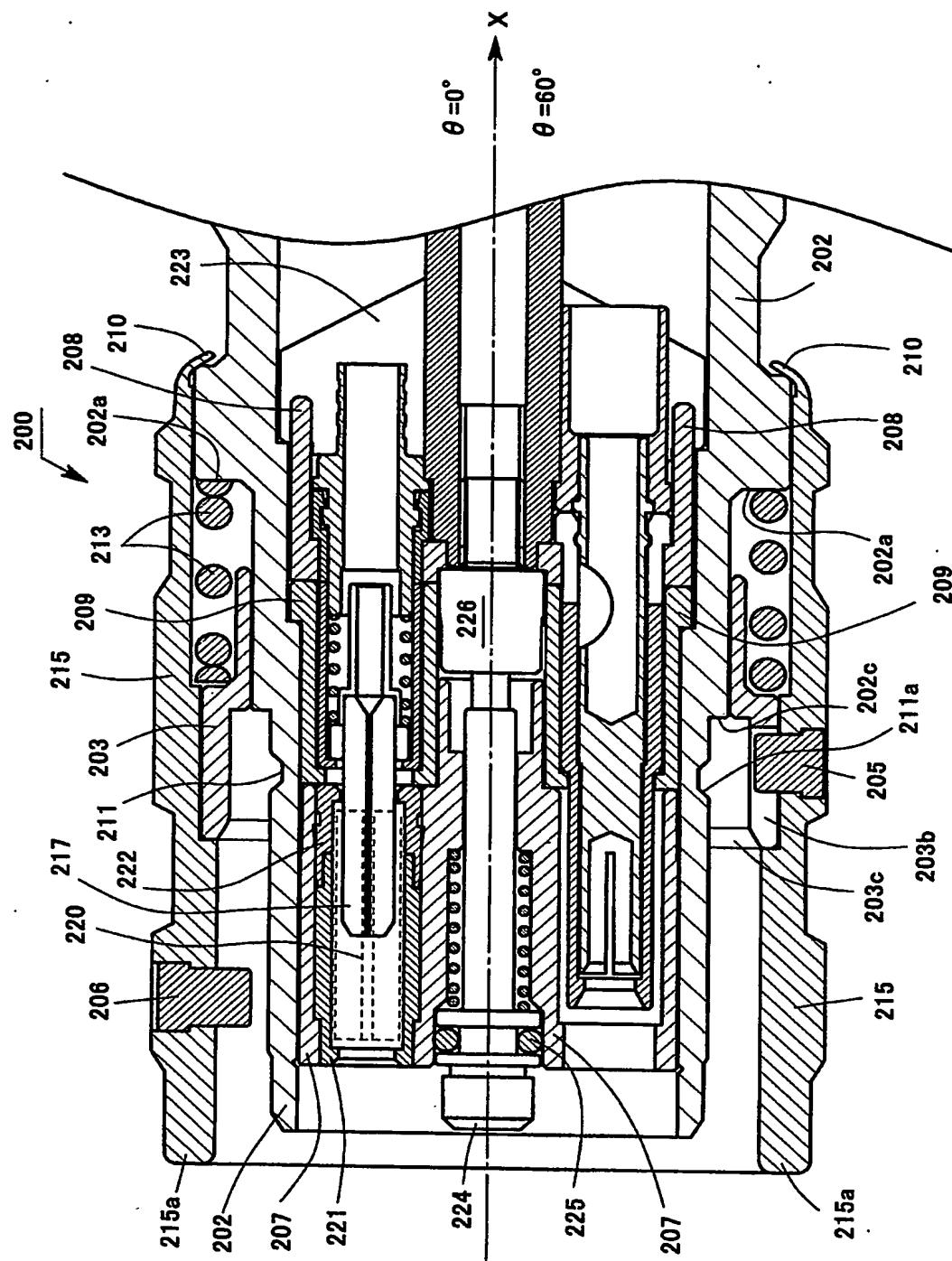
【図1】



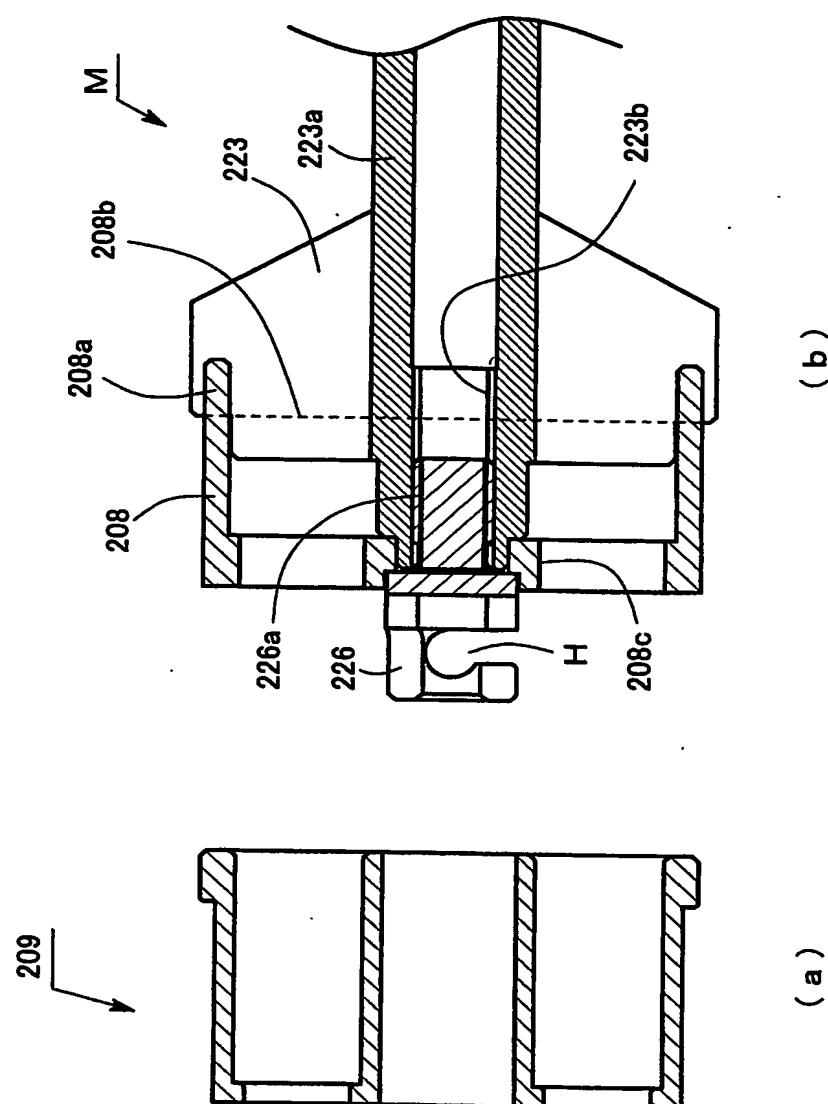
【図2】



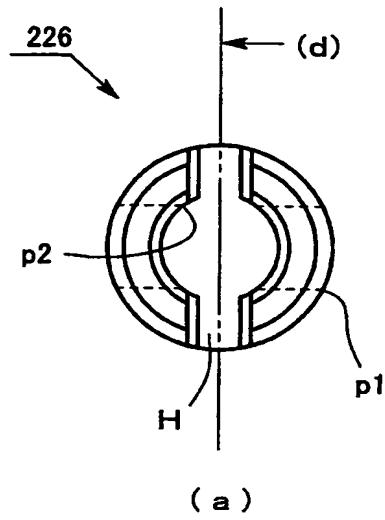
【図3】



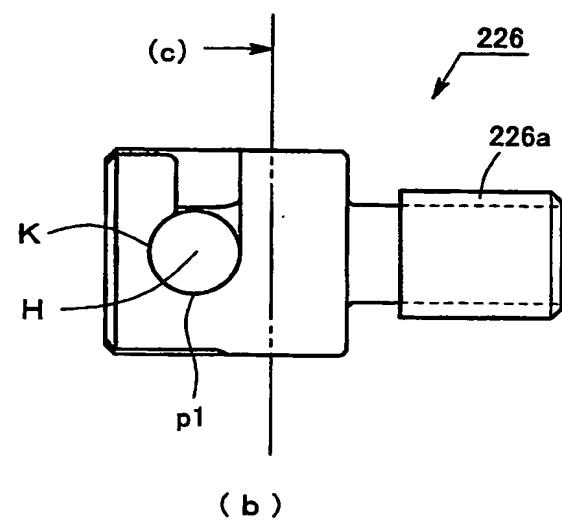
【図4】



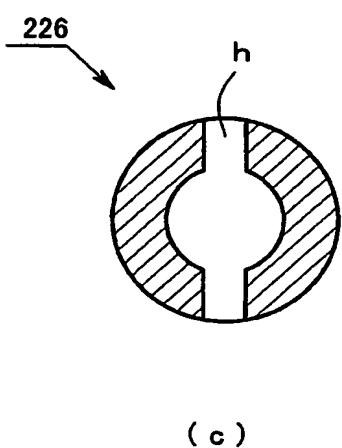
【図5】



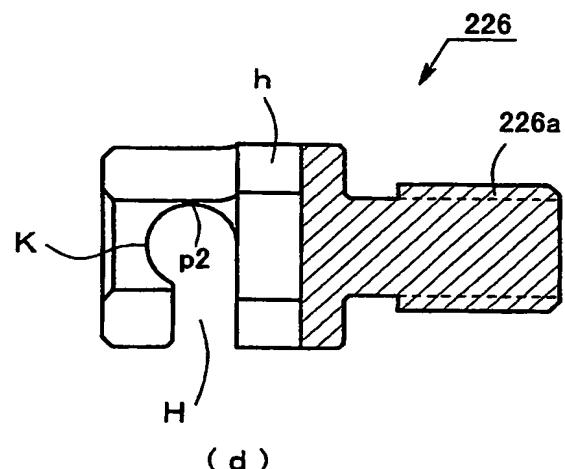
(a)



(b)

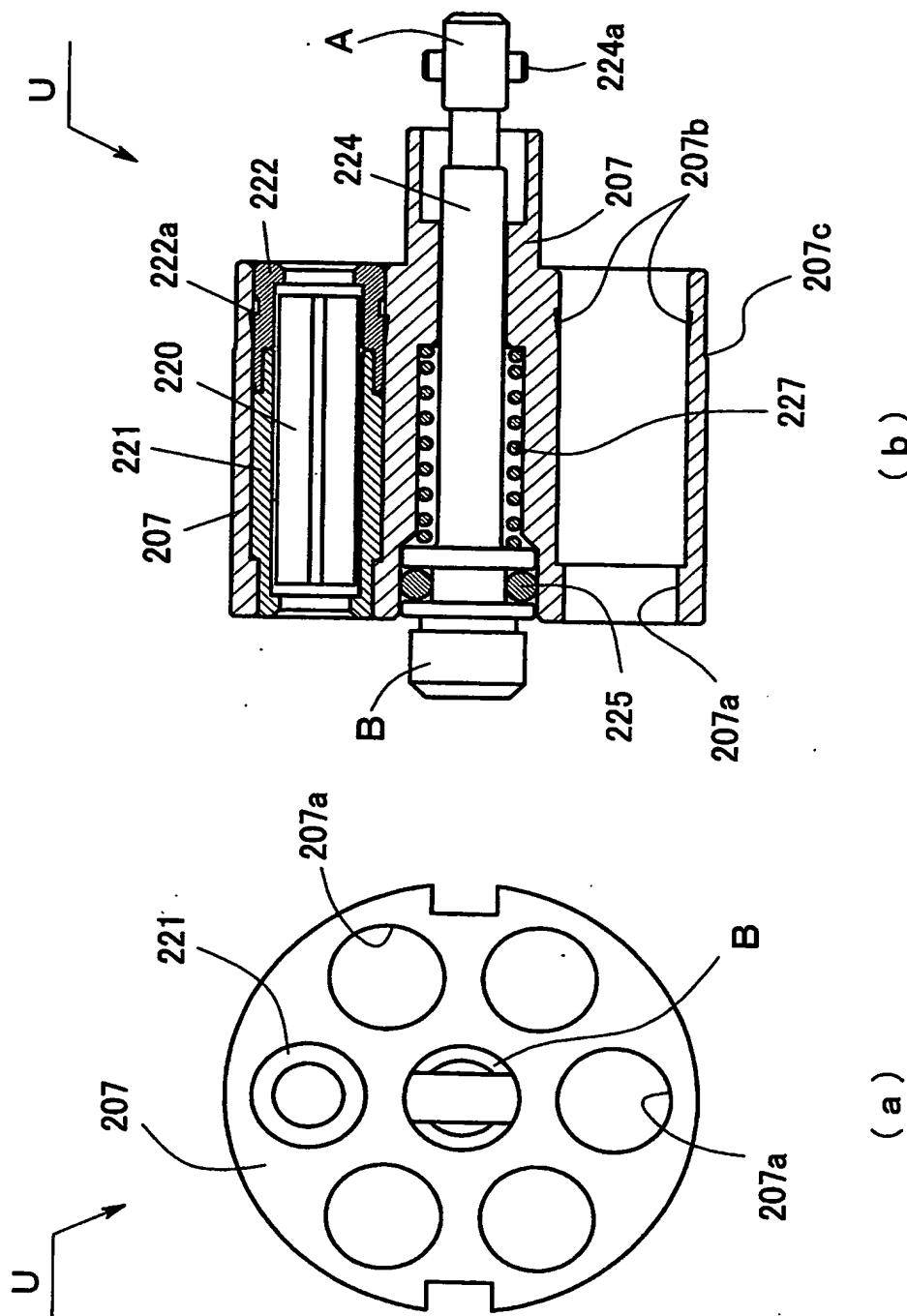


(c)

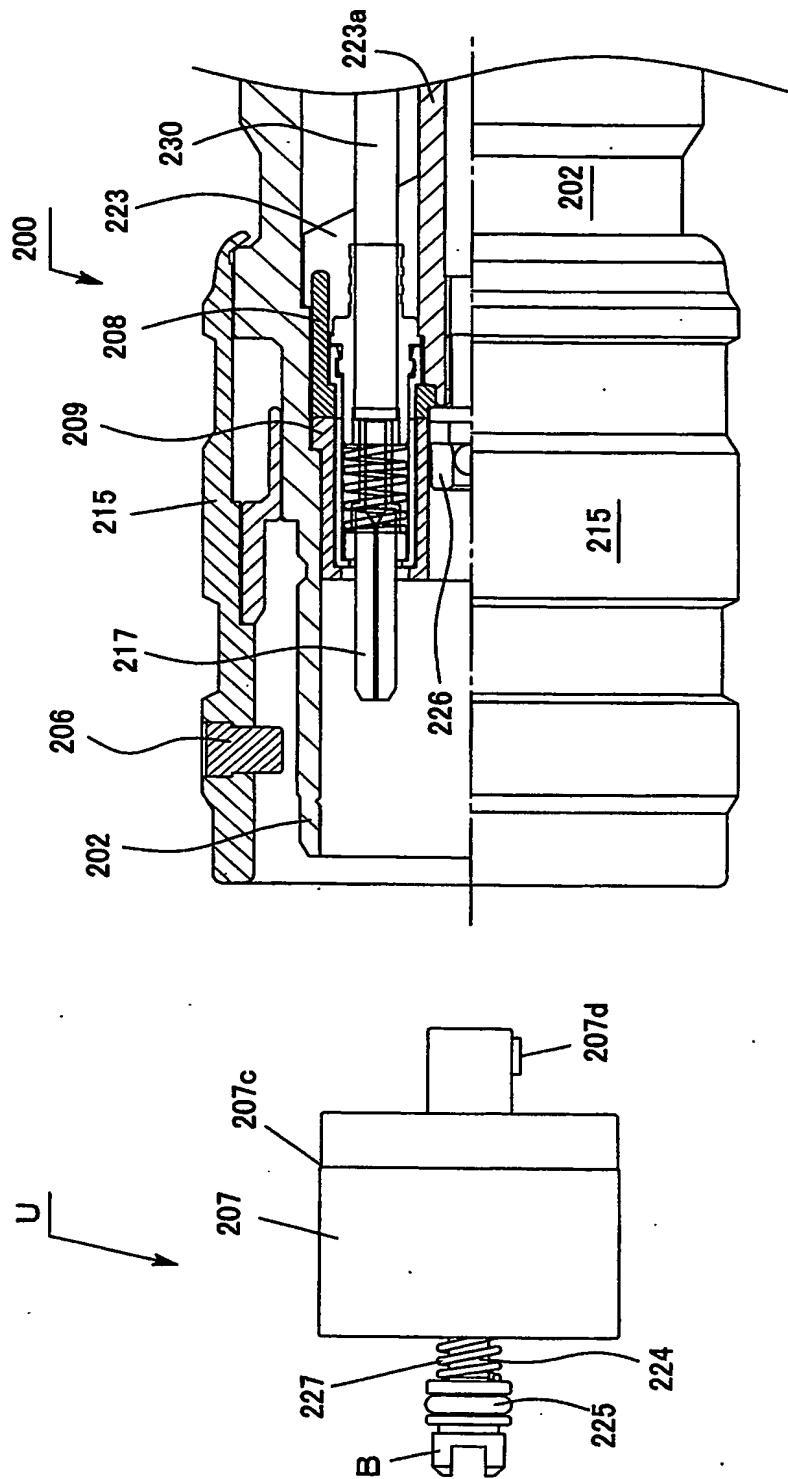


(d)

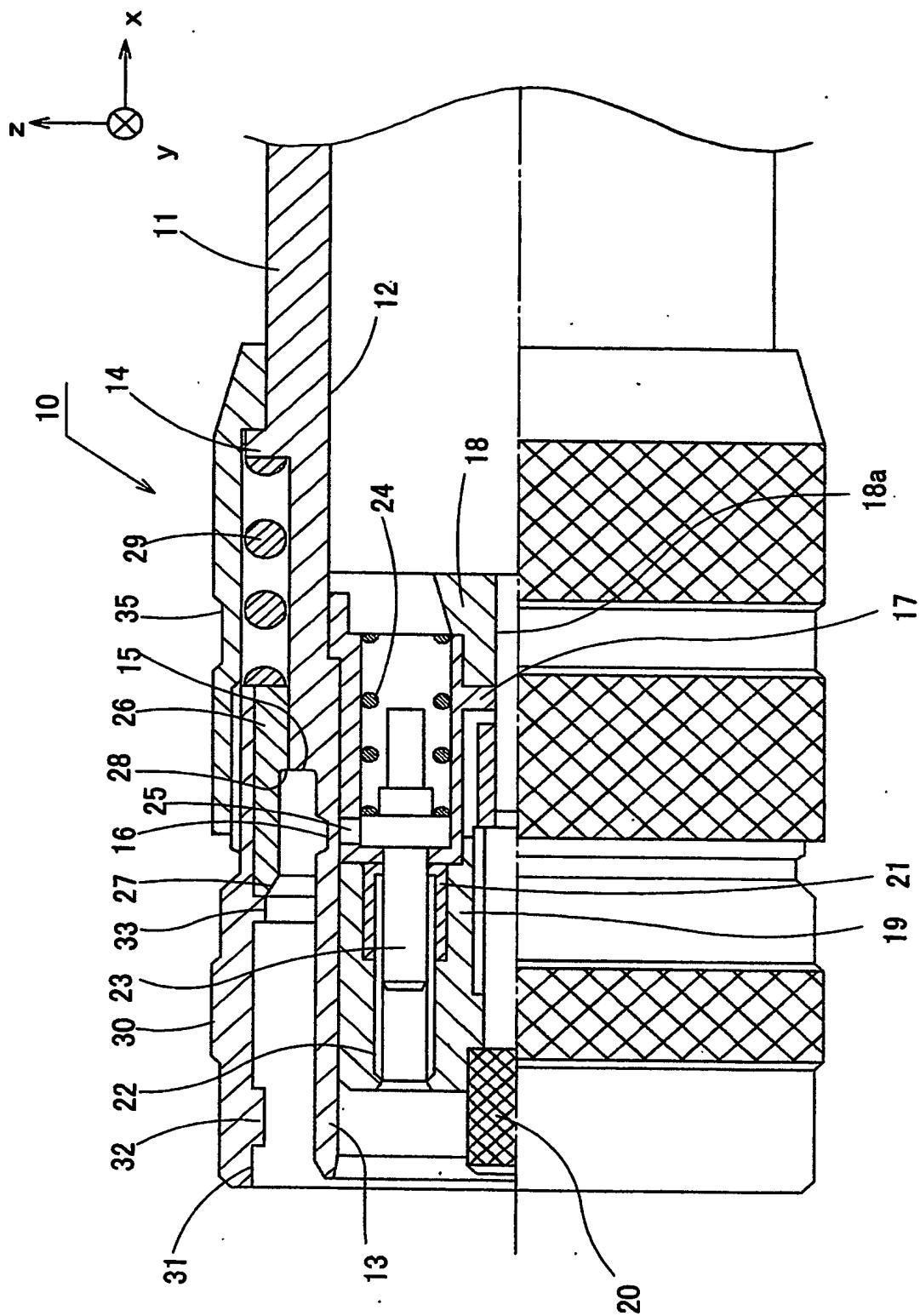
【図6】



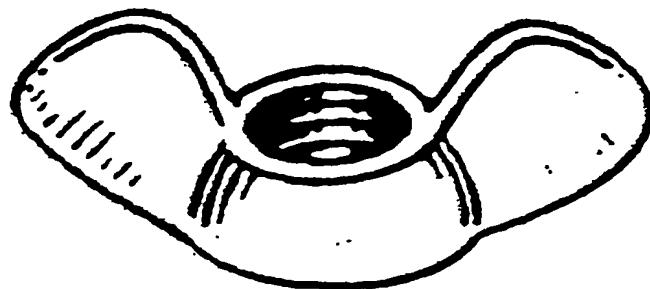
【図7】



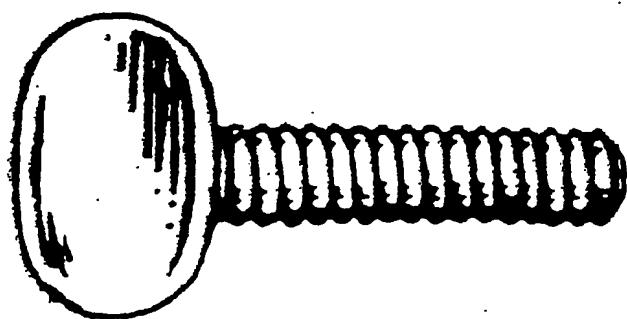
【圖 8】



【図9】



(a)



(b)

【書類名】 要約書

【要約】

【課題】 非常に容易かつ短時間で着脱が可能な、着脱に必ずしも道具を必要としないアダプタユニットを備えた光コネクタの雌プラグを実現すること。

【解決手段】 アダプタシャフト224の右側の端部は、フックボルト226のバイオネットロック溝と良好に係合する。バネ227は、バイオネットロックの解除時には、もう一方の端部Bを図7の左向きに付勢して押し出す機能を奏する。バイオネットロックの解除時に端部Bが突出した時には、Oリング225も押し出されて、アダプタユニットU全体を指先で引っ張り出し易くするための滑り止めの働きを奏する。この様な滑り止めの働きは、バネ227においても見られる。この様にアダプタユニットUを指先だけで簡単且つ短時間に離脱させることにより、フェルール217は、雌プラグシェルの開口方面に広範に露出されるので、フェルール217の端部の端面を清掃する場合に非常に都合がよい。

【選択図】 図7

特願2003-112918

出願人履歴情報

識別番号 [591181229]

1. 変更年月日 1994年11月10日
[変更理由] 住所変更
住 所 愛知県日進市藤枝町奥廻間1201番地の10
氏 名 カナレ電気株式会社

2. 変更年月日 1995年 8月25日
[変更理由] 住所変更
住 所 愛知県愛知郡長久手町大字長湫字段之上1番地2
氏 名 カナレ電気株式会社